

2023年4月実績概要（メモ）

（2023. 5. 25）

前年と比較し定修が少ない中、合成樹脂等の生産は概ね前年を上回るも、化成品類の生産は低調とまちまち。

1. 生産動向

イ) エチレン 449, 100トン

前月比

▲ 2. 6 % (▲ 12, 200トン)

前年同月比

+ 13. 2 % (+ 52, 400トン)

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	▲ 3. 2 %	—
定修要因等	▲ 6. 0 %	+ 23. 4 %
能力増減	—	+ 0. 4 %
稼働率変動	+ 6. 6 %	▲ 10. 6 %
生産増減率	▲ 2. 6 %	+ 13. 2 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 79. 2 %* → 当月 84. 5 % ← 前年同月 91. 8 %

定修プラント：前月 1社1プラント → 当月 1社1プラント ← 前年同月 3社3プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の減少に対して、定修規模差や稼働率要因等から LDPE、PP、塩ビ樹脂、EO、EG、SBR、BR、トルエンなどの13品目がプラス。HDPE、SM、キシレンなどの4品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差等や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、SBR、BR、トルエンなどの9品目はプラス。PS、SM、VCM、MMAモノマー、EO、EG、AN、ベンゼンの8品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、稼働日数は減少したが、定修規模差や稼働率要因から、LDPE、PP、PSはプラスとなった。HDPEは主に日数の減少からマイナスとなった。

前年比は、定修規模が本年は前年に比べて小さかったことや稼働率要因から、LDPE、HDPE、PPはプラスとなった。PSは主に稼働率要因からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

国内の生産活動としては、2月以降増加基調で推移しており、回復基調にあると考えられている。また、消費マインドとしても持ち直しの状況あるが、消費者物価の面では引き続き上昇が続いており、伸び率も拡大し、消費抑制の要因も未だ潜在している。

樹脂の出荷は、前月比は、前月が期末要因もあり増加したのに対して、当月は、LDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂揃ってのマイナスとなった。

前年比でも、4樹脂でマイナスが続いており、絶対数量でも当該月の単月の出荷量としては、低レベルの出荷状況となっている。

分野別の出荷動向としても、各出荷分野で減少がみられており、特に、LDPE、HDPEではフィルム分野、PPではフィルム分野に加え、押出成形分野の減少幅が大きくなった。PSは数量の多い包装分野、FS分野を中心に出荷が減少することとなった。

ハ) 輸 出

引き続き樹脂の需要の回復が見られていない。前月比は、前月が若干増加したこともあるが、当月は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。前年比でも4樹脂でマイナスとなり、引き合いの弱さが続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して LDPE、HDPE は若干の増加、PP、PS は僅かながら減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE は上昇、PP は前月並み、PS は低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PS ともに高めの水準にあり、引き続き在庫調整局面が続いている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LDPE	+ 1, 000	3. 8	3. 9
HDPE	+ 3, 300	3. 8	4. 2
P P	▲ 1, 800	3. 2	3. 2
P S	▲ 2, 400	2. 2	2. 0

前月からの修正を*で付記

以 上